

# 筑波大学附属坂戸高等学校

## カリキュラムデザインとWWL

### — WWLによるネットワークの拡大と「協働」—

The 8<sup>th</sup> High School Students' International ESD Symposium @ Tokyo 2019  
The 1<sup>st</sup> SDGs Global Engagement Conference @ Tokyo

November 7, 2019

国際教育推進委員会

委員長 吉田賢一

筑波大学附属学校教育局

教育長補佐 梶山 正明

# *Mission*

**国際フィールドワークを通じて持続可能な  
国際社会を創る人材育成システムの構築**

# カリキュラムデザイン

課題研究を軸とするカリキュラム開発

卒業研究

国際化に重点を置く大学へ

グローバル・ライフ

T-GAP

3年次

阿賀町校外学習

2年次

国際ESDシンポジウム

産業社会と人間

国際フィールドワーク

WWL研究大会

ASEAN校外学習

1年次

海外卒業研究支援・  
高大連携科目

インドネシア語 I・II、国際フィールドワーク入門等の異学年共修科目

## 3年間の成果

① 阿賀町校外学習2019年実施-->代替行事

② ASEAN校外学習中止-->国内校外学習を開発

③ 国際フィールドワーク-->国内版を急遽開発  
@学校法人アジア学院

④ 「高校生国際ESDシンポジウム」はオンライン開催

## 国内校外学習（ASEAN校外学習の代替措置）

◎ **Mission** : ASEAN校外学習で目指していた

① **社会課題が発生する現場を訪問すること**

② **課題解決に向けて行動している団体、行政機関、企業、  
農家、NPO等を訪問すること**

③ **課題解決のためにアクションすること** \*特に山梨県笛吹市コース



# 国内校外学習（ASEAN校外学習の代替措置）



## 山梨県笛吹市

新たな校外  
学習の提案

## 長野県飯田市

新たな観光  
農業の六次産  
業化

## 静岡県掛川市

お茶を活用した  
地域活性化

## 長崎県西海市

地域資源の  
発掘  
民泊を活用した  
地域創生

## 国内校外学習：山梨県笛吹市の例

COVID-19感染者が比較的少ない⇒学校旅行の受け入れ件数増加

笛吹市役所

JTB

附属坂戸高校

本校生徒が笛吹市でフィールドワークを行い、フィールドワーク型の学校旅行を笛吹市に提言する

# 国内校外学習：山梨県笛吹市の例

事前調査：笛吹市  
役所からインプット。





# 国内校外学習：山梨県笛吹市の例

訪問調査：笛吹市役所。



# 国内校外学習：山梨県笛吹市の例

訪問調査：地域おこし協力隊の方が経営するシヨップ。





# 国内校外学習：山梨県笛吹市の例

訪問調査：  
COVID-19で打撃  
を受けた観光農園。





# 国内校外学習：山梨県笛吹市の例

最終発表会：笛吹  
市役所職員から  
フィードバック。





# 国内校外学習、その後の継続活動

## ✓課題研究活動のシーズを生徒に

媒体によって  
情報が異なる。  
もっと簡単に旅  
情報にアクセス  
するためには？

LINEアプリの  
開発



JTB・笛吹市  
役所へ提案  
使用アンケート、  
フィードバック

# 高校生国際ESDシンポジウム

国内外の高校生が課題研究活動の成果を発表し、  
フィードバックを得る機会

単発のイベントとして開催するのではなく、  
カリキュラムデザイン上の位置づけを明確にしている

**グループによるソーシャルアクション（社会課題解決活動）**

2年次

3月～6月

7月～8月

9月～10月

11月

✓思考法

✓社会課題の調査

✓ソーシャルアクションの  
活動計画策定

アクション

✓フィードバック

✓報告会

ESDシンポジウム

**個人研究活動「卒業研究」**

2～3  
年次

12月～3月

4月～10月

11月

✓研究とは

✓先行研究レビュー

✓構想発表会

✓ゼミでの指導助言

✓調査、データ収集、分析

✓10月末：最終報告会

ESDシンポジウム

## 海外参加校の量的拡大： SEAMEO school network加盟の効果 (東南アジア教育大臣機構)

例年5～10校

約200校





**指定発表項目①WWL事業を行ったことによる学校全体への波及効果  
(通常授業への影響、生徒の変化、教員と生徒の関係の変化等)**

**WWLで求められる開発単位は、いずれも本校SGHが作り上げてきたことであるため、WWLではその進化を目指して取り組んできた**

**現在、「国際フィールドワーク」参加者については、「変容」の様子を質的に継続調査している**

## 指定発表項目②他の国内外の学校や企業等組織など、 他の組織との連携に対する変化・効果

### 民間企業との案件組成 SEAMEO school networkへの加盟

質的にも量的にもグレードアップしている：  
国内校外学習の開発・実施、「ESDシンポジウム」、通常  
授業へのコミット等、多方面でインパクトが認められる

## 指定発表項目③来年度以降の予定

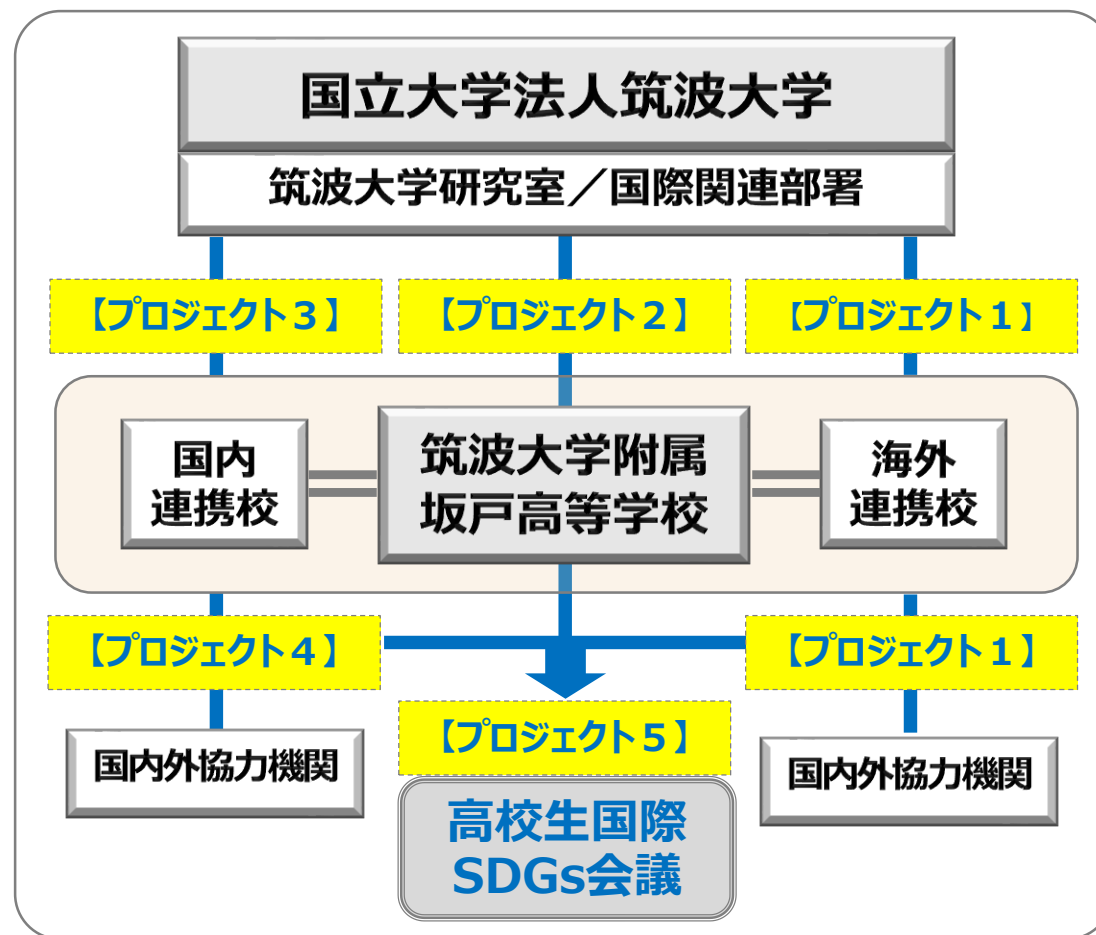
(自走の方向性、自走に向けて必要な準備等)

1. **カリキュラムデザインのコアは継続**
2. **募集型の企画については、受益者負担が原則**
3. **教職員のWell-beingとの兼ね合いが大切**

# 来年度以降の予定 → 継続・発展(支援を望む)

## ～ALネットワークと5つのプロジェクトの継続と発展～

1. **国内外FWを含むカリキュラム開発**  
→ 受益者負担、オンラインの活用、大学の支援
2. **高大連携等による学習環境の整備**  
→ 筑波大学のリソースの活用、新規事業の検討
3. **国際合同FWと教員研修の推進**  
→ 筑波大学の国際展開力の活用、オンラインの活用
4. **リペア教育・インクルーシブ教育の推進**  
→ WWL事業の支援なし、民間団体の活用
5. **高校生国際SDGs会議の推進**  
→ SEAMEOの活用、オンラインの活用、大学の支援





**COVID-19次第だが、今までの取り組みを着実に進めることが大切である**

**成果の示し方（カリキュラム開発の影響評価）については、専門的な見地から示唆が必要だと思われる**

## 結論ー研究開発のカギは・・・

✓熱量が大切：同じ方向性をもつステイクホルダーとの協働がカギ

✓ネットワークの維持：ネットしてワークする必要性

◎お手伝いできることがあれば遠慮なくご連絡ください。  
筑波大学附属坂戸高等学校 吉田賢一  
[yoshida.kenichi.gm@un.tsukuba.ac.jp](mailto:yoshida.kenichi.gm@un.tsukuba.ac.jp)